

# シラバス

## 3年次

### 教育課程表進度表

#### 1. 専門基礎分野

##### 健康支援と社会保障制度

看護関係法規Ⅰ(法令) . . . . . 2

看護関係法規Ⅱ(看護の法と責任) . . . . . 3

#### 2. 専門分野

##### 基礎看護学

看護研究方法論 . . . . . 4

##### 地域・在宅看護論

地域包括支援 . . . . . 5

##### 看護と統合の実践

災害看護学・国際看護学 . . . . . 6

看護マネジメントとキャリア論Ⅱ(看護管理) . . . . . 8

臨床看護の実践 . . . . . 9

##### 臨地実習

地域・在宅看護論実習Ⅱ . . . . . 10

成人・老年看護学実習Ⅰ . . . . . 11

成人・老年看護学実習Ⅱ . . . . . 12

成人・老年看護学実習Ⅲ . . . . . 13

小児看護学実習 . . . . . 14

母性看護学実習 . . . . . 15

精神看護学実習 . . . . . 16

看護の統合と実践実習 . . . . . 17

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		看護関係法規 I (法令)				専門基礎分野	
学年	3年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		野崎 正広 (6期生修得済み)7期生3年生になってからR8年(前期)講義をお願い					
授業目的		社会生活をする上での法を理解し、その上で看護職者に必要な衛生法について学ぶ。					
到達目標		1)法の概念及び衛生法が理解できる。 2)医療に携わる人々の資格や業務内容が法律で厳格に規定されていることを理解できる。 3)看護に携わる者が国民の健康を守り、与えられた職責を遂行するために関係法令への理解ができる。					
授業の概要		法令がなぜこのようになっているか、看護との関係はどのようなか、法改正の経緯を含めて理解する。 他の科目で学んだことや日常生活や実習での経験、書籍、テレビ、新聞、インターネットなどからの情報とも関連づけて理解する。					
成績評価		定期試験(100%)					
教科書等		森山幹夫:健康支援と社会保障制度[4] 看護関係法令(医学書院)					
自己学習		各法律を読み理解できるよう復習をする。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回	法の概念と看護法				
		第2回	医事法				
		第3回	保健衛生法				
		第4回	薬務法と環境衛生法				
		第5回	社会保険法・福祉法				
		第6回	労働法と社会基盤整備				
		第7回	環境法・看護関係法令				
		第8回	まとめ、試験				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		看護関係法規Ⅱ(看護の法と責任)				専門基礎分野	
学年	3年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		住吉 悦子(1.5回) 川原 順子(2~4、6.7回) (6期生修得済み)7期生3年生になってからR8年(後期)講義をお願い					
授業目的		看護関係法規に係る医療事故の分析を通して看護職者についての責任を学ぶ。					
到達目標		1)看護職者が専門職として関係法規を理解し、法令遵守することの意義を理解できる。 2)事例分析を通して、看護職者の責任について理解できる。 3)法令遵守についての自己の知見を発表することができる。					
授業の概要		グループでテーマと内容など企画し、主体的に取り組み、論理的な組み立てをして、発表に臨む。					
成績評価		出席状況・授業態度・グループワークの参加状況及び演習の評価を総合的に評価する。					
教科書等		森山幹夫:健康支援と社会保障制度[4] 看護関係法令(医学書院) 川村治子:看護の統合と実践[2] 医療安全(医学書院)					
自己学習		医療事故事例を信頼のおける情報源から収集し、ファイルしておく。 グループワークで、事例発表準備をする。 運営の企画をする。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回	1.看護職の法的規定と医療安全				
			1)看護倫理と医療安全				
			2)看護師の法的規定				
			3)看護業務の変遷と安全管理				
			4)看護行為における行政処分と再教育				
			2.医療事故後の対応				
			1)医療事故発生時の初期対応の考え方と方法				
		第2~4回	2)紛争化の防止対策				
			3)医療事故からの学びと看護師の責任、法令遵守				
		第5回	事例発表、全体討議				
第6回	事例発表、全体討議						
第7回	事例発表、全体討議						
第8回	まとめ、試験						

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		看護研究方法論				専門分野	
学年	3年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		水越 スミコ					
授業目的		看護研究の必要性を理解し、研究に必要な基礎的知識を修得する。 ケーススタディをまとめる。					
到達目標		1) 研究の意義, なぜ研究を学ぶのかを理解する。 2) 研究デザインの中から、質的研究・量的研究の特徴を理解する。 3) ケーススタディの取り組みの方法を理解する。 4) ケーススタディを通して文献レビュー・クリティークを理解する。 5) ケーススタディをまとめ、発表する。					
授業の概要		「看護研究とは」を理解し、看護上の課題・問題に関心を持ち、文献を読む。研究に関する倫理的配慮について考える。データの収集や分析方法などについて学ぶ。さらに実態調査研究、文献研究、事例研究について理解する。ケーススタディを実際にまとめ、発表することで、看護行動を科学的実践へと高めることを学ぶ。					
成績評価		ワーク状況(50%)、提出物(30%)、定期試験(20%)の総合評価					
自己学習							
留意事項(持参品等)		次回授業で指示されたものや課題を準備してくる。					
授業計画(授業内容)		第1回 看護研究の意義					
		第2回 文献レビューから情報の検索、研究における倫理的配慮					
		第3回 ケースレポート・事例研究、調査研究、文献研究、実践報告					
		第4回 ケーススタディの意義					
		第5回 計画と実施					
		第6回 看護実践からケーススタディへ					
		第7回 まとめと発表					
		第8回 ケーススタディの実際					
		第9回 ケーススタディの実際					
		第10回 ケーススタディの実際					
		第11回 ケーススタディの実際					
		第12回 発表					
		第14回 発表					
		第15回 まとめ					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		地域包括支援				専門分野	
学年	3年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		水越 スミコ					
授業目的		住民のニーズを把握し、地域の暮らしを支える多様な人々と保健・医療・福祉専門職と連携・協働し、変化する時代や社会のニーズに対応する能力を養う。					
到達目標		1) 地域(福山市)における暮らしが理解できる。 2) 地域(福山市)における暮らしを支える人々との連携・協働について理解できる。 3) 多職種連携・協働における看護の役割を理解できる。 4) 人々の暮らしを支えるための、看護専門職者としての課題を述べるができる。					
授業の概要		事例展開においては、既習学習を活用し、また、病院や地域で経験した看護を振り返り多職種の専門職者の役割・機能を踏まえた上で、看護職の立場で連携・協働について意見交換をする。グループワークの方法は、グループ毎に選定して良いことにする。					
成績評価		グループワークの参加状況・発表内容・方法を評価し、総合的に評価する。					
教科書等		既習科目の教科書から必要に応じて使用する。					
自己学習		実習で学んだ内容を他者に伝えられるよう準備する。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回 地域包括支援とは					
		第2回 福山市の地域について知る					
		第3回 事例展開:作業療法士・理学療法士との連携・協働					
		第4回 事例展開:介護福祉士との連携・協働					
		第5回 事例展開:多職種と連携しつつ福山市で暮らすことを支える					
		第6~11回 発表・評価					
		第12・14回 地域での新しい連携・協働活動の創造活動(演習)					
		第15回 本試験					

学科		看護学科	開講年度		令和7年度		
科目名		災害看護学・国際看護学			専門分野		
学年	3年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		吉田 敬（1,2回）、山本千佳子（3～8回）					
授業目的		災害・地震災害時の看護の基礎知識を学び、適切な対応を理解し、基本的な目的である対象の「命を救い、生を支える」看護について学ぶ。					
到達目標		1) 災害医療の基礎知識が理解できる。 2) 災害看護の基礎知識が理解ができる。 3) 災害のサイクルに応じた活動現場の災害看護が理解できる。 4) 被災者特性に応じた災害看護の展開について理解できる。					
授業の概要		災害サイクル全般における看護の役割を理解したうえで、既習の内容と他領域の知識および技術を統合した、被災者特性に応じた看護の展開を、避難所運営シミュレーションを通じて学修する。					
成績評価		終講試験(80%)、演習後のレポート(20%)の総合評価とする。					
教科書等		竹下喜久子他:看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学(医学書院)					
自己学習							
留意事項(持参品等)		避難所運営シミュレーション(机上です)の際に学校側で準備する(学校の平面図1F～3F、付箋等)					
授業計画(授業内容)		第1.2回	1.災害医療の基礎知識				
			1) 災害の定義、種類と健康障害				
			2) 災害対応に関わる職種間・組織間連携				
			2.災害看護の基礎知識 国際看護との関連				
		第3回	災害のサイクルに応じた活動現場の災害看護				
		第4回	被災者特性に応じた災害看護の展開				
		第5回	災害とこころのケア				
		第6回	避難所における看護活動				
	第7回 避難所運営シミュレーション						
	第8回 試験						

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		災害看護学・国際看護学				専門分野 看護の統合と実践	
学年	3年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		山本千佳子					
授業目的		世界の健康問題の現状を学び、諸外国における保健・医療・福祉の実情と課題を理解する。国際的な広がりを持つ災害看護や国際協力の重要性を理解し、国際社会における看護師の役割を学ぶ。 災害に関連した特殊な医療・看護について学ぶ。					
到達目標		1)国際看護学の基本的理念が理解できる。 2)グローバルヘルスの概念が理解できる。 3)諸外国における保健・医療・福祉の課題が理解できる。 4)災害に関連した特殊な医療・看護実践が理解できる。 5)国際活動と看護について理解できる。					
授業の概要		国際看護の基本理念をふまえてグローバルヘルス、国際看護活動の役割について理解し、国際状況から意義や課題を学修する。					
成績評価		レポート(30%) 終講試験(70%)					
教科書等		浦田喜久子他:看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学(医学書院)					
自己学習		災害・国際社会のニュースに関心をもち、5事例以上ファイルしておく。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回 国際看護学とは・国際看護の基本理念					
		第2回 グローバルヘルス・国際看護学における倫理・教育・研究					
		第3回 国際協力のしくみ・国際看護活動における看護の役割					
		第4回 開発協力と看護					
		第5回 国際救援と看護					
		第6・7回					
		1.災害看護学と国際看護学の統合					
		1)国際的な防災・減災の取り組み 2)国際防災世界会議					
		2.災害看護・国際看護の原則					
		1)看護行為の判断の基盤になるもの 2)人道支援					
		3.災害に関連した特殊な医療・看護実践					
1)瓦礫の下の医療 2)CBRNE(シーバーン)への対応							
3)災害時特有の疾病(圧座症候群・深部静脈血栓症・肺動脈・血栓塞栓症・四肢外傷・熱傷・津波肺・たこつぼ心筋症・爆傷)							
4.国際貢献							
第8回 まとめ・試験							

学科		看護学科	開講年度		令和7年度		
科目名		看護マネジメントとキャリア論Ⅱ			専門分野		
学年	3年	開講期間	前期	単位数	1単位	時間数	15時間
担当教員		岡本 和恵					
授業目的		看護におけるマネジメントの概要を理解し、看護管理の重要性を学ぶ。 マネジメントに必要な知識と技術を学び、チーム医療や組織における看護職の役割を理解する。 看護サービスのマネジメントができる為の基礎的知識を学ぶ。					
到達目標		1) 看護におけるマネジメントの概要を理解できる。 2) チーム医療における看護職の責任と役割及び、多職種との連携・協働について理解できる。 3) 看護マネジメントに必要な知識と技術が理解できる。 4) 看護職のキャリア形成について理解できる。 5) 看護サービスのマネジメントについて理解できる。					
授業の概要		看護を取り巻く諸制度のもとに看護管理の概念について学び、マネジメントに必要な知識と技術について理解する。					
成績評価		レポート(40%) 定期試験(60%)の総合評価とする。					
教科書等		上泉和子他:看護の統合と実践[1] 看護管理(医学書院)					
自己学習							
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1回	看護とマネジメント				
		第2回	看護ケアのマネジメント				
			1) チーム医療				
			・看護職の責任と役割 ・多職種との連携・協働				
			2) 看護業務の実践(日常業務のマネジメント)				
			・看護業務、看護基準と看護手順 ・情報の活用				
			・日常業務のマネジメント:優先順位の決定と多重課題への対応				
		第3.4回	看護サービスのマネジメント				
			1) 人材・物品・情報のマネジメント				
			2) 組織におけるリスクマネジメント				
		第5回	看護職のキャリアマネジメント				
		第6回	看護を取り巻く諸制度				
	1) より専門職の高い看護職の養成及び認定制度						
	2) 医療保険・介護保険に関する法制度						
	・医療費支払いシステム・診療報酬						
	3) 看護政策と制度						
第7回	看護マネジメントに必要な知識と技術						
	1) メンバーシップ・リーダーシップ						
第8回	まとめ・試験						

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		臨床看護の実践				専門分野 看護の統合と実践	
学年	3年	開講期間	後期	単位数	1単位	時間数	30時間
担当教員		3年生の教員					
授業目的		対象の状態に応じた看護を実践する為に必要な臨床判断能力と、看護技術の習得状況の総合的な評価を行い、看護実践能力の向上を図る。					
到達目標		1.事例の問題解決の看護計画立案ができる。 2.看護論理と医療安全を踏まえた看護の実践ができる。 1)生活の援助技術 2)診療の補助技術 3.実践の評価・修正ができる。 1)コミュニケーション 2)フィジカルアセスメント 3)臨床判断 4)看護技術 4.看護実践能力における自己の課題の抽出ができる。					
授業の概要		卒業時に習得しておく必要のある看護実践力について客観的に評価し、自己の課題として明確にすることを目的に取り組めるように授業構成をする。事例の援助の必要性をアセスメントして立案した看護計画をもとに実践し、そのプロセスでの臨床判断や看護技術としての行為を評価し、より客観的な自己の課題を見出す。					
成績評価		技術試験・課題レポート					
教科書等		文献検索を丁寧に積み、クリティークしながら根拠に基づいた援助を計画する。					
自己学習		全ての実習で学んだことを想起して学習する。					
留意事項(持参品等)							
授業計画(授業内容)		第1～10回 1.根拠に基づいた看護を行う上で、必要となる知識・技術の明確					
		1)対象の理解(疾病・治療・発達段階)					
		2)看護援助の必要性					
		3)援助方法の選択					
		4)予測すべきリスクと留意					
		5)臨床推論					
		2.事例患者への日事生活援助と診療の補助の実践					
		1)対象に応じたコミュニケーション					
		2)対象のフィジカルアセスメント					
		3)対象と場面に応じた臨床判断					
		4)個人を尊重した対応					
		5)安全への配慮					
相互評価、自己評価、自己の課題の明確化							
		第11～15回 3.技術試験(客観テストとパフォーマンス評価)					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		地域・在宅看護論実習Ⅱ (在宅療養者の看護)				専門分野	
学年	3年	開講期間	通年	単位数	2単位	時間数	90時間
教員名		守屋 君子					
授業目的		在宅看護の対象者およびその家族を理解し、健康の保持増進・疾病の予防及び、QOLの向上を目指した生活の維持拡大、自立への看護活動を通して地域の保健・医療・福祉体制における看護の展開ができる能力について学修する。					
到達目標		1)在宅療養者やその家族の生活を理解できる。 2)在宅療養者やその家族の健康状態を把握し健康問題が理解できる。 3)在宅療養者やその家族を理解し在宅での援助活動の実際を通し、看護の役割について理解できる。 4)看護の継続性を理解し、社会資源活用システムや関係機関との連携について理解できる。					
授業の概要		在宅看護の対象者やその家族などの理解を深める。対象者の健康の維持・回復をめざした看護活動を理解する。また、在宅看護を提供する訪問看護ステーションが地域に存在し、保健・医療・福祉施設とのネットワークの状況を理解する。対象者が住み慣れた生活の場で生活が維持できるための援助方法を理解する。在宅ターミナルも含め対象者が在宅での生活を継続していくために必要な看護の知識技術を学び支援の在り方について					
成績評価		全出席とする。実習評価表により評価する。					
教科書等		関連した教科書および参考書、授業資料					
自己学習		実習開始までに指定した事前学習と学内演習に取り組む。					
留意事項(持参品等)		実習要項参照する。					
授業計画(授業内容)		1. 訪問看護ステーションで2週間の実習を行う					
		2. 地域包括センターで1週間の実習を行う					
		実習期間中に連携会議や検討会議、ミーティングに参加する					
		その他 実習要項を参照する					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		成人・老年看護学実習 I (急性期・回復期の看護)				専門分野	
学年	3年	開講期間	通年	単位数	3単位	時間数	90時間
教員名		友野 智絵      朝日奈 沙妃					
授業目的		生命の危機状態、手術を受ける患者等を通して、クリティカルなケアを必要とする患者の看護を実践できる基礎的能力を養う。					
到達目標		1) 生体機能に急激な変化をきたしている患者を三側面から理解できる。 2) 生体機能に急激な変化をきたしている患者の生活の援助が実施できる。 3) 生体機能に急激な変化をきたしている患者の苦痛の緩和ができる。 4) 回復を阻害する因子を明らかにした回復促進に向けた援助が実践できる。 5) 手術を受ける患者の麻酔、手術侵襲の理解及び回復に向けた援助が実践できる。 6) 生命維持管理・救命時の援助を理解できる。					
授業の概要		患者の置かれている状況を総合的にとらえ、手術や急激な身体侵襲によって変化する生体の変化を理解する。 患者の急激な症状の変化や治療、処置による日常生活の変化を理解し、基本的ニーズを充足するための援助について理解する。生命維持管理・救命時の援助について理解できる。					
成績評価		全出席とする。実習評価表により評価する。					
自己学習		実習開始までに指定した事前学習と学内演習に取り組む。					
留意事項(持参品等)		実習要項を参照する。					
授業計画(授業内容)		(実習内容)					
		・実習要項を参照する。					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		成人・老年看護学実習Ⅱ (慢性期・リハビリテーション看護)				専門分野	
学年	3年	開講期間	通年	単位数	3単位	時間数	90時間
教員名		朝日奈沙妃 宮口美穂 坂本聡子					
授業目的		慢性期にある患者を通して、健康状態に応じた看護が実践できる基礎的能力を養う。健康障害にある患者へのリハビリテーション看護を実践できる基礎的能力を養う。					
到達目標		1) 慢性期にある患者の健康問題を理解できる。 2) 患者の健康状態に応じた日常生活援助が実践できる。 3) 患者のセルフケア能力を高める援助と社会資源を活用した継続的な療養生活を支える方法を理解し、実践できる。 4) 患者の社会復帰に向けた多職種連携・協働の実際を理解できる。					
授業の概要		慢性期、リハビリテーションが必要な患者への看護の展開について理解する。受け持ち患者の実習を通して、慢性期では個別の患者を把握し、セルフケア能力を高める日常生活援助と、社会資源を活用した継続的な療養生活を支える方法を理解し実践する。また、社会復帰に向けた多職種連携・協働の実際を理解する。					
教科書等		関連した教科書および参考書、授業資料					
自己学習		実習開始までに指定した事前学習と学内演習に取り組む。					
留意事項(持参品等)		実習要項を参照する。					
授業計画(授業内容)		(実習内容)					
		・慢性期にある患者の健康状態を理解し、リハビリテーション看護の実際、支援方法を学び、患者の特徴をとらえた看護の展開を行う。					
		・実習要項を参照する。					

<b>学科</b>		看護学科		<b>開講年度</b>		令和7年度	
<b>科目名</b>		成人・老年看護学実習Ⅲ (認知機能障害のある対象の看護)				専門分野	
<b>学年</b>	2年	<b>開講期間</b>	通年	<b>単位数</b>	1単位	<b>時間数</b>	30時間
<b>担当教員</b>		後藤 直美 川原順子					
<b>授業目的</b>		認知機能障害がもたらす影響を理解し、対象に必要な看護を実践する基礎的な能力を養う。					
<b>到達目標</b>		1)認知機能障害のある対象者が理解できる。 2)認知症のある対象者の生活機能評価、尊厳に基づいた、看護を実践できる。					
<b>授業の概要</b>		認知症のある対象者の看護を展開について理解する。					
<b>成績評価</b>		全出席とする。実習評価表により評価する。					
<b>教科書等</b>		関連した教科書および参考書、授業資料					
<b>自己学習</b>		実習開始までに指定した事前学習と学内演習に取り組む。					
<b>授業計画(授業内容)</b>		1.認知症のある対象者の看護を展開する。					
		2.実習要項を参照する。					

学科		看護学科	開講年度		令和7年度		
科目名		小児看護学実習			専門分野		
学年	3年	開講期間	通年	単位数	2単位	時間数	80時間
教員名		茶木 五月					
授業目的		小児期にある対象を理解し、成長発達段階にあるあらゆる健康状態の対象に応じた看護ができる基礎的能力を養う。					
到達目標		<p>1)小児の発達段階の特徴を知り、その発達段階に応じた援助が理解できる。</p> <p>2)看護過程に沿って健康障害をもつ小児および家族への看護が展開できる。</p> <p>3)小児の保健・医療・福祉について理解し、幅広く健康問題を捉え、小児看護の役割が理解できる。</p>					
授業の概要		実習は、病院実習と保育所実習とする。記録物は指定のものを使用し、目標が達成できるよう教員と調整する。病院実習では患児を受け持ちとし、看護の展開を理解する。					
成績評価		全出席とする。実習評価表により評価する。					
教科書等		関連した教科書および参考書、授業資料					
自己学習		実習開始までに指定した事前学習と学内演習に取り組む。					
留意事項(持参品等)		実習要項を参照する。					
授業計画(授業内容)		1週間	健康な小児の発達段階別の特徴を理解する。				
		2週間	健康障害をもつ小児とその家族への看護を実践する。				
			他実習要項を参考のこと				

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		母性看護学実習				専門分野	
学年	3年	開講期間	通年	単位数	2単位	時間数	60時間
教員名		今岡 みどり					
授業目的		周産期にある妊婦・産婦・褥婦・新生児及びその家族への看護ができる基礎的能力を養うとともに、生命観、両性の役割についての考えを深める。					
到達目標		1) 母性看護の対象が理解できる。 2) 妊娠期の看護が理解できる。 3) 分娩期の看護が理解できる。 4) 産褥期に応じた看護が理解できる。 5) 新生児期の看護が理解できる。					
授業の概要		母性看護の特性と周産期である妊娠期・分娩期・産褥期と新生児期の各期の特徴を学び、看護の展開について理解する。外来実習においては妊婦検診を通して、母体の身体的・心理的变化や胎児の状況をアセスメントできる。また病棟実習では分娩の経過を学び、産褥期に起こるさまざまな変化とともに新生児の観察や必要なケアを体験的に学修する。					
成績評価		全出席とする。実習評価表により評価する。					
教科書等		関連した教科書および参考書、授業資料					
自己学習		実習開始までに指定した事前学習と学内演習に取り組む。					
留意事項		実習要項を参照する。					
授業計画(授業内容)		1 母性外来実習を行う					
		2 分娩見学を行う					
		3 産褥の受け持ちを行う					
		4 新生児室実習を行う					
		実習要項を参照する					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		精神看護学実習				専門分野	
学年	3年	開講期間	後期	単位数	2単位	時間数	80時間
教員		川原順子					
実習目的		精神障害を持つ対象及びその家族の特徴と精神症に伴う諸問題を総合的に理解し、回復・自立に向けた援助が実践できる基礎的能力を養う。					
到達目標		1) 精神に健康障害をもつ対象者の治療的環境が理解できる。 2) 精神に健康障害をもつ対象者の健康障害が理解できる。 3) 看護過程に沿って対象者の看護とセルフケア能力をアセスメントし理解できる。 4) 精神医療における多職種と看護師の役割と機能について理解できる。 5) 人との関係や看護援助を通して自己洞察することができる。					
授業の概要		精神科病院で行われている医療・看護活動の実際を体験し、精神疾患を持つ人々の健康を回復する過程において、健康の段階に応じた医療や看護を理解する。対象理解を深め、患者のもつ健康を回復する過程をアセスメントし、意思決定を支援する。また、生活能力を回復させるための技術を用い、地域での生活支援における看護の役割を理解する。患者の地域生活支援と自立とサポートシステム、精神疾患患者の自立と社会参加の促進、様々な職種との協働を円滑に調整する役割について理解する。					
教科書等		関連した教科書および参考書、授業資料					
自己学習		実習開始までに指定した事前学習と学内演習に取り組む。					
留意事項		実習要項を参照する。					
授業計画(授業内容)		1. 入院中の精神に障害をもつを対象の看護展開を行う。					
		2. 治療的環境を理解するために、保護室の見学、身体拘束体験を通して学ぶ					
		3. プロセスレコードを通して、自己のコミュニケーションの傾向、対人関係における自己の課題の明確化、自己の言動が対象者に与える影響を考察していく					
		4. デイケア実習を1日行う。					
		詳細は実習要項を参照する。					

学科		看護学科		開講年度		令和7年度	
科目名		看護の統合と実践実習				専門分野	
学年	3年	開講期間	後期	単位数	2単位	時間数	80時間
教員名		後藤 直美 (他教員)					
授業目的		病院組織における看護部の位置づけと役割・責務・病棟管理の実際を学ぶ。また、既習の知識・技術・態度を統合し、医療チームの一員としての役割遂行をめざした看護実践について体験を通して理解する。					
到達目標		1) 複数の患者を受け持ち、個々の患者ケアの優先度を判断する必要性を理解できる。 2) 勤務交代時の引継ぎの目的が理解できる 3) 看護チームにおけるリーダーシップ・メンバーシップが理解できる。 4) 看護部の役割、病棟看護師長の役割を理解し、勧募管理の実際が理解できる。 5) 地域連携室の役割を理解し、地域・多職種との連携が理解できる。					
授業の概要		複数受け持ちを行い、患者の看護の優先順位を判断する能力と時間管理を養う。看護管理者とともに看護管理マネジメントの重要性について学ぶ。					
教科書等		関連した教科書および参考書、授業資料					
自己学習		今までの学習・実習の総合的な復習をする。					
留意事項(持参品等)		実習要項を参照する。					
授業計画(授業内容)		1. 複数受け持ちの実習とし患者2人の看護を行う。					
		2. 看護管理実習を1日間行う					
		3. リーダー実習を1日間行う					
		4. メンバー実習を1日間行う					
		5. 地域連携室実習を1日間行う					
		6. 継続実習を1回行う。					
		詳細は実習要項を参照					